

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和7年 6月 25日

茨城県知事

大井川和彦 殿
(県西県民センター扱い)

提出者

住 所 茨城県結城市大字結城10677-4
氏 名 株式会社大紀アルミニウム工業所
結城工場長 関 一則

電話番号

0296-32-3311

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社大紀アルミニウム工業所 結城工場
事業場の所在地	茨城県結城市大字結城10677-4
計画期間	R7年4月1日～R8年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	非鉄金属製造業
②事業の規模	生産量 42,387t 製造品出荷額 16,244,987千円(令和6年度)
③従業員数	62人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	廃アルカリ発生→工場保管→委託処理:中和処理 廃油発生→工場保管→委託処理:油水分離処理、燃料化 がれき類発生→工場保管→委託処理:埋め立て 廃プラ発生→工場保管→委託処理:RPF化 汚泥発生→工場保管→委託処理:焼却による発電、脱水後埋立、路盤材販売 木屑発生→工場保管→委託処理:破碎により燃料チップ化

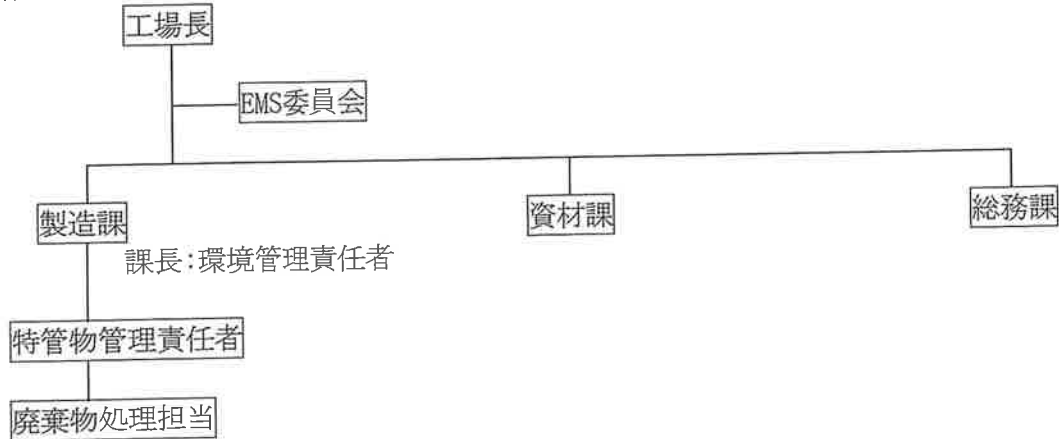
*発生工程については、別紙のとおり



(第2-1面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ	廃油
	排出量	968 t	29 t
	<p>(これまでに実施した取組)</p> <p>【廃アルカリ】は生産が増加すると、それに伴い排出量も増える。また原料の低級化が著しく、排出量の抑制が困難であるが、廃アルカリ交換基準を見直し厳しく管理した。</p> <p>【廃油】は主にアルミ粉の切削油である。生産が増加するとそれに伴いアルミ切り粉購入量と排出量が増えるので、材料検収を強化した。</p>		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ	廃油
	排出量	960 t	28 t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>【廃アルカリ】は、交換基準を再度見直し徹底する。また雨水の混入防止や濃縮などによる減量化を検討する。</p> <p>【廃油】はアルミ切り粉の雨水による濡れを防止し、廃油中への水分の混入を抑制する。</p> <p>ISO14001－EMSの教育の中で廃棄物分別・抑制の教育を実施する。</p> <p>その他は同上</p>		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)	
	【廃アルカリ】	発生場所付近に専用の貯蔵ピット及びタンクを設け、貯蔵する。
	【廃油】	発生場所付近に専用の貯蔵ピット及びタンクを設け、貯蔵する。

②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 同上
-----	-------------------------------------

(第2-2面)

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラ	
	排 出 量	8 t	t
	(これまでに実施した取組) 廃プラはスクラップ購買時に梱包材が増加してきており、廃プラの発生が増える可能性があるが、その中でも分別を強化した。 また、汚れの少ないフレコンバック、パレット、PPバンドを有価にて販売した。(新規事業者の選定し販売を実施)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラ	
	排 出 量	8 t	t
	(今後実施する予定の取組) 廃プラの分別回収を徹底し有価販売を促進する。 ISO14001-EMSの教育の中で廃棄物分別・抑制の教育を実施する。 その他は同上		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラについて、発生場所にてコンテナに分別・保管する。コンテナがいっぱいになった時点で、廃棄物保管場所へ移動し、貯蔵する。 状態を確認し有価物との分別を行い、有価販売実施。		

②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 同上
-----	-------------------------------------

(第2-3面)

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥
	排 出 量	83 t	71 t
	(これまでに実施した取組)		
	<div>がれき類</div> は、緊急炉修を削減し、排出量を抑制した。 <div>汚泥</div> は、ISO14001の中で年2回の油水分離槽の清掃が義務づけられているため、排出量の抑制が困難であるが、5 S活動の推進により、工場内のホコリや灰を飛散しないようにした。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥
	排 出 量	82 t	70 t
	(今後実施する予定の取組)		
	<div>がれき類</div> は、緊急炉修を削減し、排出量を抑制する。 <div>汚泥</div> は定期的な工場内清掃の実施・強化する。 ISO14001－EMS の教育の中で廃棄物分別・抑制の教育を実施する。 その他は同上		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) <div>がれき類</div> は発生場所にてコンテナに分別・保管し、コンテナがいっぱいになった時点で、廃棄物保管場所に移動し、貯蔵する。 <div>汚泥</div> は油水分離槽に油水分の混入防止措置を行い、処理汚泥の発生量を抑える。その後、汚油水分離槽清掃時に廃棄物委託処理業者が引き取りを依頼する。		

②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 同上
-----	-------------------------------------

(第2-4面)

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	木屑	
	排 出 量	42 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 木屑はスクラップ購買時にパレットが増加してきており、木屑の発生が増える可能性があるが、使用できるものは、社内で再利用した。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	木屑	
	排 出 量	40 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 社内での再利用を促進する。 分別回収の強化により不純物の混入を防止する。 ISO14001-EMSの教育の中で廃棄物分別・抑制の教育を実施する。 その他は同上		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 発生場所にてコンテナに分別・保管し、コンテナがいっぱいになった時点で、廃棄物保管場所へ移動し、貯蔵する。		

②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 同上
-----	-------------------------------------

(第3-1面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ	廃油
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
	廃アルカリ、廃油共に自ら行う再生利用は実施しない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ	廃油
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
	同上		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ	廃油
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
廃アルカリ、廃油共に自ら行う中間処理は実施しない。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ	廃油

		自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t
		自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	0 t	0 t
		(今後実施する予定の取組) 同上		

(第3-2面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項				
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】			
	産業廃棄物の種類	廃プラ		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	0 t		0 t
	(これまでに実施した取組) 廃プラ は、自ら行う再生利用は実施しない。			
② 計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	廃プラ	紙屑	
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	0 t		0 t
	(今後実施する予定の取組) 同上			
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項				
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】			
	産業廃棄物の種類	廃プラ		
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	0 t		0 t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	0 t		0 t
	(これまでに実施した取組) 廃プラ は、自ら行う中間処理は実施しない。			
②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	廃プラ	紙屑	

		自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t
		自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	0 t	0 t
		(今後実施する予定の取組) 同上		

(第3-3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項				
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】			
	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥	
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t	
	(これまでに実施した取組) がれき類、汚泥共に自ら行う再生利用は実施しない。			
② 計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥	
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t	
	(今後実施する予定の取組) 同上			
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項				
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】			
	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥	
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t	
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	0 t	0 t	
	(これまでに実施した取組) がれき類、汚泥共に自ら行う中間処理は実施しない。			
② 計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥	

		自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t
		自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	0 t	0 t
		(今後実施する予定の取組) 同上		

(第3-4面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	木屑	
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 木屑は自ら行う再生利用は実施しない。		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	木屑	
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 同上		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	木屑	
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 木屑は自ら行う中間処理は実施しない。		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	木屑	

		自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t
		自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	0 t	0 t
		(今後実施する予定の取組) 同上		

(第4-1面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ	廃油
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 廃アルカリ、廃油共に全て委託処理		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ	廃油
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 同上		
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラ	
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 廃プラは、全て委託処理		
②計画	【目標】		

	産業廃棄物の種類	廃プラ	
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 同上		

(第4-2面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) がれき類、汚泥共に全て委託処理		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 同上		
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	木屑	
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 木屑は全て委託処理		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	木屑	
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 同上		

(第5-1面)

産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ	廃油
	全処理委託量	968 t	29 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	968 t	29 t
	再生利用業者への 処理委託量	0 t	29 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) <div> <div>廃アルカリ</div>は全て委託処理し、中和により処理。 </div> <div> <div>廃油</div>は全て委託処理し、油水分離処理後、燃料化。 </div>		
	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ	廃油
②計画	全処理委託量	960 t	26 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	960 t	26 t
	再生利用業者への 処理委託量	0 t	26 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t

		認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t
		(今後実施する予定の取組) 廃アルカリは3社契約しており、そのうち優良認定制度2社が取得しております。 その他は同上		
※事務処理欄				

(第5-2面)

産業廃棄物の処理の委託に関する事項				
② 現状	【前年度（令和6年度）実績】			
	産業廃棄物の種類	廃プラ		
	全 処 理 委 託 量	8 t		0 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	8 t		0 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	8 t		0 t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0 t		0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0 t		0 t
	(これまでに実施した取組) 廃プラは全て委託処理する。処理は焼却にて熱回収し発電。 RPF化へ切替			
②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	廃プラ		
	全 処 理 委 託 量	8 t		0 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	8 t		0 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	8 t		0 t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0 t		0 t

	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組 「 廃プラ 」は、処分業者が優良認定を取得。 その他は同上		
※事務処理欄			

(第5-3面)

産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥
	全 処 理 委 託 量	83 t	71 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	59 t	71 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0 t	71 t
	(これまでに実施した取組) 「 がれき類 」は全て委託処理し、埋め立て処分 「 汚泥 」は全て委託処理。 脱水、焼却処理を行い最終処分先で路盤材として販売		
	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥
②計画	全 処 理 委 託 量	80 t	70 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	80 t	70 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t

		認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0 t	70 t
		(今後実施する予定の取組) がれき類は2社契約の内、1社処分業者は優良認定取得。 汚泥は2社契約の内、1社処分業者は優良認定取得。 その他は同上		
※事務処理欄				

(第5-4面)

産業廃棄物の処理の委託に関する事項				
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】			
	産業廃棄物の種類	木屑		
	全 処 理 委 託 量	42 t		t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	42 t		t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	42 t		t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0 t		t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0 t		t
	(これまでに実施した取組) 木屑は全て委託処理 破碎により燃料チップ化（最終処分先で 焼却による発電）			
②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	木屑		
	全 処 理 委 託 量	40 t		t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	40 t		t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	40 t		t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0 t		t

		認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0 t	t
		(今後実施する予定の取組) 木くず処分業者は優良認定取得。 その他は同上		
※事務処理欄				

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。